

父親のひとこと





## はじめに

このたび、高藤建設株式会社が創立四十周年にあたり、青少年の自我形成に役立つ記念事業をとるという思いで本書を刊行されました。

高藤建設の創業者・高藤國太郎会長は、若いころ、それまで勤めていた工務店を退職、上京して苦学され、昭和七年、釜山で高藤工務店を創立。戦前は朝鮮で活躍されたものの敗戦で無に帰し、昭和二十一年二月、門司に高藤建設を設立されたと聞いています。

少年時代に心ならずも進学できなかった高藤会長は、事業のかたわら常に青少年のすこやかな成長をねがい、これまでも市の児童文庫に寄付するなど心を尽くしてこられました。

ここに、りっぱな青少年の読み物ができたことをお慶びすると同時に、執筆者のみなさまのご協力に感謝いたします。

この本が少しでも多くの青少年に親しまれることをねがいます。

昭和六十一年二月

安川 寛  
四島 司

## お祝いの言葉

松浦 秀明

高藤建設株式会社の創立四十周年に当たり、『父親のひとこと』が発刊されたことをお祝い申します。

高藤会長とは、戦前の釜山時代から半世紀にわたるお付き合いで、ここに立派な教育書ができましたことは本当に嬉しいことです。

私は西条中学（愛媛県）二年の時、父が病気になる、約一週間位で亡くなりました。病気は熱黄疸。今考えるとウイルス病だったと思います。死ぬる数日前に自分で死を感じたのでしようか、「お前、中学を出て、何とか上の学校に行つて、出来れば立派な医者になつてくれ」と云つたと覚えております。

残りの中学三年間は西条の開業医の家に、今で云う家庭教師の様な形で先生の御宅に住み込んで三年間を過ごし、卒業して鹿児島七高に入學、九大医学部に進みました。大正九年、卒業と同時に九大医学部第一内科教室に入局。昭和六年に釜山府立病院の院長で赴任し、終戦の年の昭和二十年十一月迄約十五年を過ごしました。

釜山に行つてすぐ高藤会長の御宅が私の家のすぐ近くだったので、御付き合いが始まりまし

た。終戦で引き揚げ、会長は門司で、私は二年おくれて二十二年に国立小倉病院の院長として小倉に来て、又、高藤さんとの御付き合いが始まって今日に至っております。釜山時代が十五年、北九州に来て三十九年、釜山と北九州合わせて五十有余年になります。

最後に、私がいつも口にしております格言を二つだけ記します。

云ふは易く、行ふは難し

知らざるを知らずと云へ、これ知るなり

〈国立小倉病院名誉院長〉



目次

はじめに	1
お祝いの言葉	2
人さまに借りを残すな	金子太郎
任せたらいい	間茂樹
努力をして諦め	青山政雄
先人の猿真似をするな	新井正
「おやじ」は「おやじ」	荒井範雄
偉くなろうと思うな	新木文雄
大志を抱け	有吉龍健
人並みを	安部高子
心にゆとりを持って	阿部正男
無言	安西正樹
人生は運命との対峙	石蔵啓三郎
一生懸命生きる	和泉太郎
油断なき人に不安なし	磯部重雄
	36
	34
	32
	30
	28
	26
	24
	22
	20
	18
	16
	14
	12

進んでやれば仕事は楽しいもの	市川慶三	38
早起きは三文の得	井上章	40
お母さんが心配するヨ	今田章	42
接する人に愛情を持つて	今永一	44
花は桜木、人は武士	入江伸明	46
人間健康が第一	岩木健次	48
無言の心	上村勝一	50
我家の神話	碓井三子男	52
短気は損気	内川昭司	54
脚下照顧	江頭匡一	56
身の程を知れ	合馬又彦	58
自然の恵みと二人の父の教訓	岡野正実	60
売物には紅をさせ	岡本包夫	62
父の後姿	大石正巳	64
さあ、自然と対決だ	大石潤	66
温容、不言実行	大神文和	68